

教科教育課だより

～未来ある子供たちのために For Our Children～

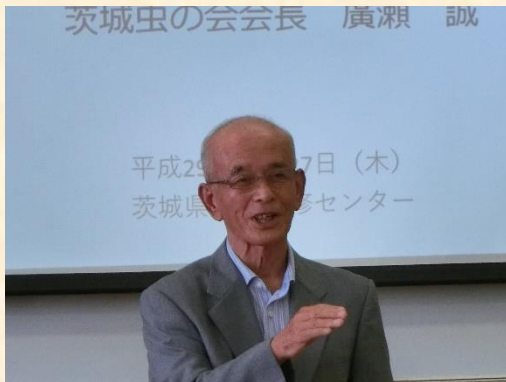
第24号 H29. 8.28

茨城県教育研修センター
教科教育課

☎0296-78-3213 (直通)



7月27日 水環境について考える 夏の環境教育研修講座を実施しました



▲「ラムサール条約に登録された涸沼の保全について」の講義



▲プランクトンネットで水の採取



▲パケットテストでの水質検査



▲ペットボトルと炭や砂、小石などを使った水の浄化実験

7月27日(木)、「水環境について考える 夏の環境教育研修講座」を、中堅教諭等資質向上研修講座(小中高、環境教育・ESD)の選択研修と合同で実施しました。

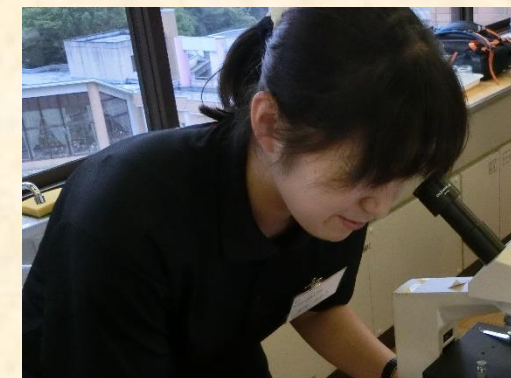
午前、元水戸市立緑岡小学校長で、県環境アドバイザーでもある、茨城虫の会会長の廣瀬誠先生に「ラムサール条約に登録された涸沼の保全について」という題で講義をしていただきました。

昆虫の専門家である廣瀬先生は、自宅で飼っているゴキブリの話で冒頭から受講者を引きつけ、涸沼の江戸時代の水運上の重要性から、自然環境の特長、また、ラムサール条約の意義や涸沼の保

全に至るまで様々なお話をしてくださいました。

午後は、研修センター近くの北山公園で、池の水とプランクトンや水生生物の採取を行い、その後、2班に分かれて、理化学的水質検査と生物学的水質検査の方法をそれぞれ学びました。簡単な材料でできる水の浄化実験やプランクトンの観察も行い、受講者のみなさんは充実した様子で、研修を終えることができました。

ペットボトルの底付近をカッターで切り、逆さまにして、脱脂綿、砂、炭、小石の順に入れる。上から様々な水を流して浄化の様子を観察しました。



▲プランクトンの観察